

教育研究業績書

令和 7 年 5 月 9 日

氏名 巢 立 佳 宏 印

教育上の能力に関する事項

事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書・教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価 「令和元年度群馬医療福祉大学前期授業評価アンケート」	令和元年 9 月	保育実習、保育教職演習など実習指導に関する科目にて、学生の授業評価アンケートにおいて高い評価を得た（授業内容に満足している生徒が 8 割以上を占めた。）
4 実務の経験を有する者についての特記事項 セーリング大会ワールドカップにて展示ブース参加（学生引率）	平成 30 年 8 月	学生を引率し、江ノ島にてヨット製作体験を行った。ビニールプールに水を入れ、紙皿やストローで幼児や保護者と学生が“ヨット”を作成することを援助した。
前橋市七夕祭りに参加（学生引率）	令和元年 7 月	前橋市観光振興課と連携し、学生と共に会場設営および子ども向けの展示ブースを設置した。学生と共に来場した保護者や子どもと関わった。
社会福祉法人あそか会 あそか祭りに参加（学生引率）	令和元年 10 月	知的障害や精神疾患を有する方々の地域交流イベントに学生と共に参加した。学生が対応に困難を有する場合には援助を行った。
群馬医療福祉大学附属認定子ども園鈴蘭幼稚園クリスマス会に参加	令和元年 12 月	附属幼稚園におけるクリスマス会に学生と共に参加し、子どもたちの演劇の補助や対応を行った。また、教員がサンタ役として園児らと交流を図った。
前橋市すくすくおやこスクールに講師として参加	令和元年 12 月	乳児と保護者ら計 40 名に対して「親子で楽しむ運動遊び」を実施した。実践的な乳児の運動に関して音楽に合わせ、どのように遊びを通して行うか指導・助言した。
学生によるオレンジリボン運動に参加	令和 2 年 10 月	児童虐待防止ネットワークが行っている「学生によるオレンジリボン運動」に参加。ゼミ活動を通して児童虐待防止を目的とする活動を実施した。
学生によるオレンジリボン運動に参加	令和 3 年 10 月	児童虐待防止ネットワークが行っている「学生によるオレンジリボン運動」に参加。ゼミ活動を通して児童虐待防止を目的とする活動を実施した。

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

埼玉県小川町七夕まつりに参加（学生引率）	令和 4 年 7 月	小川町七夕まつりに学生と共に参加し、学生の制作物の展示を行った。
学生によるオレンジリボン運動に参加	令和 4 年 10 月	児童虐待防止ネットワークが行っている「学生によるオレンジリボン運動」に参加。ゼミ活動を通して児童虐待防止を目的とする活動を実施した。
埼玉県鳩山町 鳩山祭りに参加（学生引率）	令和 4 年 11 月	鳩山祭りに学生と共に参加。地域交流の一環として、学生と共にボランティア活動に参加。
埼玉県小川町七夕まつりに参加（学生引率）	令和 5 年 7 月	小川町七夕まつりに学生と共に参加し、学生の制作物の展示を行った。
学生によるオレンジリボン運動に参加	令和 5 年 10 月	児童虐待防止ネットワークが行っている「学生によるオレンジリボン運動」に参加。ゼミ活動を通して児童虐待防止を目的とする活動を実施した。
埼玉県鳩山町 鳩山祭りに参加（学生引率）	令和 5 年 11 月	鳩山祭りに学生と共に参加。地域交流の一環として、学生と共にボランティア活動に参加。
埼玉県小川町七夕まつりに参加（学生引率）	令和 6 年 7 月	小川町七夕まつりに学生と共に参加し、学生の制作物の展示を行った。
児童養護施設「江南」見学体験	令和 6 年 10 月	児童養護施設「江南」にて学生 13 名を引率し、見学を行った。
学生によるオレンジリボン運動に参加	令和 6 年 11 月	児童虐待防止ネットワークが行っている「学生によるオレンジリボン運動」に参加。ゼミ活動を通して児童虐待防止を目的とする活動を実施した。
埼玉県鳩山町 鳩山祭りに参加（学生引率）	令和 6 年 11 月	鳩山祭りに学生と共に参加。地域交流の一環として、学生と共にボランティア活動に参加。
児童養護施設「江南」カレー作りを通じた交流体験ボランティア（学生引率）	令和 7 年 1 月	児童養護施設江南にて学生 6 名を引率し、カレー作りを施設の子どもたちとともに体験した。
親子のつながり講演会「お子さんのサイン、見逃してないですか？～もしも子どもが学校に行きたくないと言ったら～」(後援:東松山市)	令和 7 年 2 月	学生 2 名を引率、講演中の託児（幼児～高校生）のボランティアに参加。
親子のつながり講演会「発達障害と不登校」（学生引率）	令和 7 年 3 月	学生 2 名を引率、講演中の託児（幼児～高校生）のボランティアに参加。

様式第4号（教員個人に関する書類）

5 その他		
職務上の実績に関する事項		
事項	年 月	概要
1 資格、免許 訪問介護員 2 級養成研修課程 修了 保育士資格 幼稚園教諭 I 種免許 認定心理士	平成 22 年 8 月 平成 23 年 3 月 平成 23 年 3 月 平成 23 年 3 月	(千葉県-041616) (平二二幼一種第三四三号,教員免許更新講習未受講) 第 34580 号 取得
2 学校現場等での実務経験		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 児童養護施設において施設職員を対象にペアレント・トレーニングを実施（～平成 25 年 3 月まで,計 9 回） "埼玉県熊谷市大幡幼・小・中連携保護者会にて講師として参加（独演）" "埼玉県熊谷市民生委員・地域相談員研修会に講師として参加（独演）「巡回相談の役割とは」" 日本社会事業大学「効果のあがる就労移行支援プログラムのあり方研究会」に所属（～平成 27 年 3 月まで） "平成 26 年度埼玉県熊谷市適応指導教室保護者会	平成 24 年 7 月 平成 25 年 7 月 平成 25 年 10 月 平成 26 年 4 月 平成 26 年 10 月	児童養護施設職員を対象に定期的にペアレント・トレーニングを実施した。幼児及び児童（青年期）までの各発達段階に合わせ、個別の子どもへの課題設定の仕方や対人関係のスキルをどのように向上させるか施設職員と検討を行った。その結果、職員が子どもの学習への動機付けや集団に参加する力の高め方について学び、心理的な変化も現れた。実施前後での職員の変化を立正大学社会福祉学部紀要へ投稿し、掲載された。 演題「保育・小中学校をつなぐ教育相談～発達障害児の理解と対応～」 具体的に幼児期～青年期までの発達段階、発達障害に関する理解について講演した。また保育士、小学校教諭、中学校教諭が子どもやその家庭、外部機関との連携方法、近年の社会的な保育、教育に関する課題について講演した。保幼小中連携であり、近年の主体的・対話的で深い学びに結びついている。 さらに各学校での子どもへの話法、板書、授業の展開方法、教材の設定に関しても指導および検討を行った。 演題「巡回相談の役割とは」地域が行う家庭への支援について講演。外部機関との連携方法について、特に指導、助言を行い、子育て家庭への支援方法について検討した。 就労移行支援プログラムのあり方研究会に参加し、全国規模でのアンケート調査やワークショップの開催などに関与した。 不登校児童の保護者に対し、相談・助言を実施。家族造形法を用い、母子間の交流を促すグループワークを実施。

様式第4号（教員個人に関する書類）

に講師として参加。"		子どもへの話法、課題の設定、ほめ方に関しても指導および検討を行った。
平成 27 年度埼玉県熊谷市適応指導教室保護者会に講師として参加。	平成 27 年 10 月	不登校児童の保護者に対し、相談・助言を実施。家族造形法を用い、母子間の交流を促すグループワークを実施。子どもへの話法、課題の設定、ほめ方に関しても指導および検討を行った。
大間々北小学校の就学時健康診断において「子どもへのかかわり方」をテーマに講演	平成 28 年 9 月	子育てに関するペアレント・トレーニングのスキルを紹介し、グループワークなどを実施。家庭への子育てにおける支援方法を指導・助言した。具体的に子どもへの話法、自宅での教材の設定、ほめ方、叱り方に関しても指導および検討を行った。
埼玉県鴻巣市就学支援委員会に心理士として参加。	平成 29 年 4 月	市内全域の特別な配慮を要する児童への支援について心理的側面からの助言を行った。
埼玉県鴻巣市立小谷小学校の職員研修会にて講師に講師として参加	平成 29 年 8 月	具体的に知的障害、発達障害、学習障害などを有する児童への対応について講演。小学校における主体的・対話的で深い学びにつなげる学校での発達障害児への話法や板書、教材・教具の設定、学習形態、席次など実践的な指導方法について検討した。特に教員同士のグループワークやディスカッションを通して実践的な理解を深めた。
横浜保育福祉専門学校総合学科夏季公開講座に講師として参加。	平成 30 年 8 月	高校生を対象に「保育の心理」について講義を行った。
前橋市まちなかキャンパス講座に講師として参加。	令和元年 9 月	「フラワー曼荼羅ぬり絵～心身の健康と脳の活性化～」を実施。
埼玉県本庄市北泉保育園にて保育アドバイザーとして事例検討会、職員研修会（保育場面において対応が困難な児童への対処法）を実施。	令和元年 10 月	保育園にて対応が困難な児童に関する事例検討会を開催。保育園における子どもへの指導方法の検討、対応が困難な子どもへの対応についてグループワークなどを通して理解を深めた。小1プロブレムなど、予見される就学時の問題、発達障害、異食、逃走など様々な問題について検討し、対応方法を指導した。
"群馬県教育委員会主催「高校専門教育研修講座」に講師として参加。"	令和元年 11 月	高校に勤務する教員を対象に「交流活動における児童生徒理解やコミュニケーションに関する技術や知識 2」について講演。小学校や保育園での交流活動を例に上げ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方に関して講じた。具体的に幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿から保育士がどのように環境設定などを行い保育しているのか講じた。また、グループワークやディスカッショ

様式第4号（教員個人に関する書類）

東松山市令和2年度幼保小連絡会に参加	令和2年11月	ン、ロールプレイなどを通して、理解を深めた。
令和3年度山村学園短期大学公開講座「フラワー曼荼羅ぬり絵」	令和3年12月	コロナ禍で三密を避ける中でいかに子どもの心を育て、他者との関係を築いていくか現場の保育園、幼稚園、小学校の先生方と検討を行った。検討結果を話し合い、各グループが発表を行った。 巢立は発表終了後、全体への講評を行った。
令和3年度東松山市保育士研修会「気になる子、保護者との接し方～発達障害への理解と対応～事例を通して」	令和3年12月	大学近隣住民の方々へ公開講座「フラワー曼荼羅ぬり絵」を行った。
鳩山町子育て応援講座に講師として参加。「ママ・パパの“思い”が伝わる、お子さんへの話し方・ほめ方・叱り方」独演	令和5年3月	東松山市内の保育士・幼稚園教諭42名に対して、発達障害に関する研修会を行った。発達障害に関する講義およびグループワークを行った。実際に園で困っている事例などを取り扱い、具体的かつ実践的な対応に関する助言も行った。アンケート結果から「大変良かった」および「まあまあ良かった」が36名、「普通」が4名、「未記入」が2名であることがわかり、非常に満足度の高い結果となった。
鳩山町子育て応援講座に講師として参加。「なぜ？どうして？子どもの行動の理由と関わり方のポイント」独演	令和5年3月	鳩山町在住の未就学児の子育て家庭に対して、話し方やほめ方、怒らない叱り方について講演を行った。その後のアンケート結果においても、高評価であった。
鳩山町わくわくWORKに箱庭体験の講師として参加	令和6年8月	鳩山町在住の未就学児の子育て家庭に対して、子どもの行動での疑問点や子育て上で不安なことなどについて事前にアンケートをとり、対応方法などの事例検討を行った。その後のアンケート結果においては、すべての参加者が満足していた（参加者8名前後）。
親子のつながり講演会「お子さんのサイン、見逃してないですか？～もしも子どもが学校に行きたくないと言ったら～」(後援:東松山市)	令和7年1月	鳩山町で行われた子どもを対象としたイベント（わくわくWORK お仕事体験&宿題応援Day）に箱庭体験のブースを設置し、箱庭体験及び児童虐待予防を目的とした啓発リボン（オレンジリボン）を配布した。ブース来場者は約400名。
本庄市私立保育園 共催 日	令和7年2月	東松山市の後援を受け、不登校児を抱える方々、またはこれに興味・関心を有する方々を対象に不登校の社会的現状や不登校児への対応などについて講演を行った。40名以上が参加した。
		本庄私立保育園及び日本保育協会埼玉県支部（北部地区）

様式第4号（教員個人に関する書類）

本保育協会埼玉県支部（北部地区）合同研修会 「発達障がい児への対応、グループワークを通して困った行動を解決しよう」 秋平保育園 入園保護者研修会「お悩み解決！子どもの困った行動への対応～子どものほめ方について知ろう～」	令和7年4月	の保育士50名を対象に講演を行った。発達障害に関する知識や子どもへの具体的な対応について講義を行った。 秋平保育園にて新入園児の保護者60名に対して子どもの具体的なほめ方について講義を行った。
4 その他		

担当授業科目に関する研究業績等

著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行 年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概 要
ハテナから考える乳児保育Ⅰ・Ⅱ	共著	令和7年12月 (刊行予定)	教育情報出版		現在執筆中。12月刊行予定
保育の心理学-子どもの理解をケアにつなげる-	共著	令和7年3月	教育情報出版	8ページ(173ページ)	7章 1節 アタッチメントと基本的信頼感を執筆。愛着関係とは何かから始まり、アタッチメントの種類やインターナルワーキングモデルとの関係性、アタッチメントの形成不全からくるまた-ナルディプリベーションについて執筆。 8章 1節 乳幼児期の学びと遊びを執筆。子どもの「機能快、協同性、社会性」を中心に執筆。
「保育現場における新聞紙遊びの現状を探るー表現（造形）的視点を捉えてー」	共著	令和5年5月	山村学園短期大学紀要	16ページ	保育現場における新聞紙遊びについて検討を行った。新聞紙という遊びが保育においてどのような意味をもつのか検討した。また造形的視点から新聞紙遊びに関する検討を行った。
保育者養成教育の課題と解決に関する研究ー5歳児に対	共著	令和4年3月	教育実践年報No.5 星槎教	28ページ	保育者としての「あるべき姿」に関して検討を行うため、保育士・幼稚園教諭を養成する学生が5歳児を対象に保育実践を行った。また、保育を実践する環境を学生と子ども達が協同して作成し、

様式第4号（教員個人に関する書類）

する保育実践観察調査における「言葉」「人間関係」中心に—			育 実 践 研 究 会		全面を青色に塗った壁の部屋の中で「海」をテーマに実践した。その後、保育実践の様子を“保育実践評価票”を用いて、得点の高かった箇所や低かった箇所に関して検討を行った。そして、保育内容「言葉」、「人間関係」の観点から、考察を行った。
保育内容「環境」と「表現」につながる“秘密基地づくり”遊び—自然と関わる学び—	共著	令和3年 3月	山 村 学 園 短 期 大 学 紀 要 第 31 号	9 ペー ジ	5 領域の中でも特に「環境」「表現」に着目し、学生と教員による協働して行う“秘密基地づくり”を通して、保育における自然との関わり的重要性について検討したものである。 具体的には授業内にて学生と教員が協働し“秘密基地づくり”を行った。制作過程において①フィールドワークの重要性、②自然との触れ合い、③協同性、④事前の計画の重要性が学びとして考えられ、保育内容における「環境」及び「表現」の観点から考察を行った。
「実践事例で学ぶ10の姿と生活科」	共著	令和2年 4月	株 式 会 社 大 学 図 書 出 版	8 ペー ジ	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」における「自立心」と生活科がどのように関連されているか論じたものである。 具体的には保育に関する専門的知識及び技術について論じ、実際の保育現場の中で様々な視点から10の姿における自立心と小学校課程における生活科に関して論じた。結果として家庭の理解と連携、地域との連携、現代的な課題と結びつけ、主体的・対話的で深い学びに関しては具体的な事例を通して理解できるよう論じた。保育における実践的な学びを深めることができる。
（査読付き） 遊戯療法における子どもの退室渋りに関する検討 - 児童養護施設の遊戯療法を中心に -	単著	平成28 年3月	福 祉 心 理 学 研 究 第 13 巻第1号	11 ペー ジ	児童養護施設での遊戯療法において子どもが心理室から出て行かない退室渋りという行為に着目し、検討した。子どもの乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達の知識について具体的に理解していることを前提条件として論じている。 そうした知識を有している児童養護施設心理士9名に対してインタビュー調査を行い、(M-GTA) 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。この結果、「心理面接終了から子どもの退室までのプロセス」という仮説を生成し、考察した。 これはトラウマや社会性、認知発達に課題を抱える被虐待児への実践的な対応方法について、わかりやすく図式化、可視化し、明らかにした。
遊戯療法における制限破りの問題 - 児童養護施設における被虐待児	単著	平成25 年3月	立 正 大 学 大 学 院 社 会 福 祉 学 研 究 科	10 ペー ジ	児童養護施設における遊戯療法について、文献検討および調査研究を行った。そうした中で児童養護施設に暮らす乳幼児期から青年期の子どもの各発達段階における心理的特性を踏まえ、どのように支援するべきか論じた。

様式第4号（教員個人に関する書類）

の遊戯療法を中心に -			修 士 論 文 集		次に遊戯療法における制限について文献研究を行った。そして修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用い、遊戯療法における心理士の子どもへの対応について仮説を生成した。この結果、児童養護施設に勤務する心理士が対応に困難を感じる子どもの制限破りと呼ばれる行為について検討した。こうした遊戯療法を通して、子どもの発達に関する代表的理論を踏まえ、具体的にどのような支援を行うことでトラウマや社会性、認知発達に抱える被虐待児への実践的な対応方法について論じた。
児童養護施設におけるペアレント・トレーニングの実態	単著	平成 26 年 3 月	立 正 大 学 社 会 福 祉 学 会, 立 正 社 会 福 祉 研 究 紀 要 第 15 卷 2 号	9 ページ	保育士の養育スキルを向上させるペアレント・トレーニングを児童養護施設職員に実施し、アンケート結果から分析、考察を行った。実施内容に関しては職員が主体的・対話的で深い学びを得られるようグループワークを常に行い、具体的な子どものほめ方や評価の視点について学習し、予習や復習、課題、目標設定を通して養育スキルを向上させるものである。その結果、職員自身が子どもへの「処遇の見直し」に関する意識の向上、職員間の連携や協調性の高まりが明らかとなった。また、子どもへの支援方法を向上させるペアレント・トレーニングの有効性が示された。
児童養護施設における男児へのプレイセラピー過程	単著	平成 27 年 3 月	埼 玉 工 業 大 学 臨 床 心 理 セ ン タ ー 年 報 第 9 号	8 ページ	子どもの発達段階における心理的特性について理解し、障害、精神疾患、家族構成などを含め、学校や施設での問題解決に向けたカウンセリングを行った。具体的に主体的学習を支える動機づくりや集団への参加の仕方、過去のトラウマに起因する精神症状の改善を目標に行ったカウンセリングについて論じた。
児童養護施設における遊戯療法～関係性の変化に着目して～	単著	平成 28 年 3 月	埼 玉 工 業 大 学 臨 床 心 理 セ ン タ ー 年 報 第 10 号	5 ページ	児童養護施設に入所する男児に対してプレイセラピーを4年4ヶ月行った。男児が成長するに連れ、各発達段階に応じて代表的な理論や集団への参加の方法、母子関係の再構築などプレイセラピーを通して、様々な関係性の変化について論じた。

様式第4号（教員個人に関する書類）

その他					
平成 23 年度研究報告書「児童虐待に関する文献紹介（2008・2009）」	共著	平成 24 年 8 月	子どもの虹情報研修センター	5 ページ	「青少年の治療・教育援助と自立支援―虐待・発達障害・非行など深刻な問題を抱える青少年の治療・教育モデルと実践構造（土井高德, 2009）」に関する文献レビューを行った。 ○巢立・執筆箇所（pp35-39 総 5 頁）
効果的障害者就労移行支援プログラム全国試行評価調査を通した効果モデルの改善と実践家評価者の形成・育成～全国試行評価調査とその準備活動の経験からの示唆～	共著	平成 27 年 3 月	文部科学省・科学研究費補助金基盤研究（A）「実践家参画型効果的プログラムモデル形成プロジェクト」、実践家参画型効果的プログラムモデル形成評価班（研究代表；大島 巖）		就労移行支援事業をより効果的にするために開発された「効果的障害者就労移行支援プログラム」について、プログラムの効果を検証するための介入研究が実施され、その成果と成果から得た示唆を整理した。 ○巢立・報告書作成にあたって全体的な編集作業に関与した。
知的・発達障がい児を対象にした効果的なピアノレッスン・プログラムの構築に関する研究～プログラム評価の理論と方法論を活用して～	共著	令和元年 8 月	平成 30 年度公益財団法人俱進会助成事業（研究代表；新藤健太）		知的・発達障がい児へのピアノレッスンをより効果的にするためのプログラム理論と評価方法の作成を行った。発達障害を有する児童への心理的特性などを踏まえ、ピアノを媒介とした授業・保育形態、教材の準備など様々なピアノ教室の取り組みが、どのような影響を及ぼすかアンケート調査を用いて論じた。 ○巢立・アンケート調査および分析作業に関与した。

様式第4号（教員個人に関する書類）

<u>学会発表</u>				
愛着関係が及ぼす発達への影響～児童養護施設において～	単著	平成22年11月	立正社会福祉学会・ポスター発表	反応性愛着障害と広汎性発達障害のDSM-IV-TRにおける類似点について検討した。また児童養護施設職員にインタビュー調査を行い、愛着関係が子どもの発達に及ぼす影響について発表した。
被虐待児の遊戯療法における制限の問題	単著	平成23年11月	立正社会福祉学会・口頭発表	児童養護施設にて被虐待児を対象に行われている遊戯療法について検討した。特に制限の問題に着目し、遊戯療法においてどのような意味を持つか発表した。
遊戯療法における制限破りの問題 - 児童養護施設における被虐待児の遊戯療法を中心に -	単著	平成24年11月	立正社会福祉学会・口頭発表	児童養護施設で行われている制限破りについて着目した。特に退室渋りという子どもの行為に着目し、初心の心理士がどのように対応するかインタビュー調査の結果を発表した。
児童養護施設における反応性愛着障害について	単著	平成23年10月	日本子育て学会・ポスター発表	児童養護施設において反応性愛着障害を有する児童に対してどのような対応を行っているかインタビュー調査を通して検討し、発表した。
児童養護施設におけるペアレントトレーニングの実践	単著	平成25年11月	立正社会福祉学会・口頭発表	児童養護施設において、精研式ペアレント・トレーニングを実施し、職員にどのような影響を及ぼすか検討した。アンケート結果を用いて、実施する上での課題についても検討し、発表した。
遊戯療法における子どもの退室渋りに関する検討～児童養護施設の遊戯療法を中心に～	単著	平成26年7月	埼玉工業大学第12回若手フォーラム・口頭発表	児童養護施設での遊戯療法において、子どもの退室渋りという行為に着目した。 具体的にはある県内に勤務する児童養護施設心理士9名に対してインタビュー調査を行い、(M-GTA)修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。この結果、「心理面接終了から子どもの退室までのプロセス」という仮説を生成し、発表した。
効果的プログラムモデル形成のための実践家参画型評価アプローチ法の開発（その7）～効果モデル改善ステップにおける「全	単著	平成27年5月	日本評価学会第12回春季全国大会	効果的障害者就労移行支援プログラム形成評価の取り組みを取り上げ、効果モデルを段階的に形成していくステップ（改善ステップ）における全国試行評価調査（介入研究）の位置とその有効性について考察した。 ○巣立・学会発表に向けて、発表内容などの検討に参与した。

様式第4号（教員個人に関する書類）

国試行評価調査（1年間の提示版プログラム試行評価調査）」の位置とその検証					
「実習における学生にとって有用な巡回指導のあり方について」（ポスター発表）	共著	令和4年 5月	日本保育学会 第75回大会		保育士養成課程における有用な実習の巡回についてテキストマイニングを用いて検討を行った。巡回指導において、学生に対する指導内容、巡回に要する時間、学生の求める実習巡回について検討を行った。
「保育におけるスヌーズレンを活用した保育空間演出の可能性」（口頭発表）	共著	令和4年 5月	日本保育学会 第75回大会		保育場面において特別支援教育や発達障害を有する子どもに対して活用されるスヌーズレンを空間演出として実施した。実際に保育園でのスヌーズレンの活用を検討するため、保育園や幼稚園にてインタビュー調査を行い、検討を行った。
「秘密基地作りを通して保育の環境をデザインする」（口頭発表）	共著	令和4年 5月	日本保育学会 第75回大会		保育環境として、“秘密基地”の存在について検討を行った。実際に“秘密基地”を学内に設置し、保育士や幼稚園教諭にインタビューを行い、保育場面でどのように秘密基地を活用できるのか検討を行った。